

バルダ県で学校・集合住宅の暖房システム改善事業を行いました

日本政府が国連開発計画(UNDP)に拠出した資金(約 88.5 万米ドル、令和 3 年度補正予算「国際機関等を通じた途上国への脱炭素化・気候変動適応策支援」)により、バルダ県のモルラリ村学校及び集合住宅において、セントラルヒーティングシステム、太陽光パネルの設置等による暖房・エネルギー効率改良事業が実施され、7 月 12 日、和田大使が事業の完工式に参列しました。

学校ではあわせて教室やトイレ、体育館の改修も行われるとともに、住民の省エネに対する意識向上と習慣の変革を目的とした取組も進められます。また児童による日本を題材とした絵画コンテストが開かれるなど、対日理解の促進も図られました。

